



意見交換会資料の一部

■2019. 8. 6

2015年から実施されている院内の行事を1つご紹介します。それは、石田院長と各部署職員との意見交換会です。各部署とは、薬剤師・検査技師・放射線技師他の多職種部門と看護局内の看護単位約15を含む21部署です。

石田院長が捉えられている意見交換会の意味は、主に2点。

1. 医療における価値は患者さんと医療者の関わりから生み出されます。そのために職員が医療情勢や当院の状況を理解して適切な医療を提供する必要があります。そのための情報提供。
2. 院長が職員の思いや考えを知り、働きやすい環境をつくるのが大切。

毎年5月から7月にかけて院長先生が各部署に出向いて当院の現状等々を話され、その後「どんなことでもいいですよ」と意見交換が実施されます。内容は、経営状況・人員状況・新病院に関連した情報等々が盛り沢山です。

私は、出来る限り同席させていただいています。同じ現象でも職種間に温度差がある事実を知ります。病院は、多くの「プロ」集団が集まっている特殊な組織だと改めて感じることと、多くの難しさがあると痛感させられます。

さあ、明日からも患者さんのため、病院職員のために頑張ります。